

事業名【担当課】

52.緑化振興事業【みどりの推進課】

全体に対する意見・提案等

・里山は長久手市の良さの一つであり、里山保全は里山を維持するために重要と考える。成果指標であるイベント参加者数は「里山の保全と活用を図る」という事業意図を直接測る指標ではなく、里山に興味のある人の数である。イベント参加と里山保全の間には、かなりギャップがあるように思う。

近隣の学生ボランティアとさらに連携して行ってほしい。

行ってみたい里山をさらに具現化するためスピード感をもった事業展開を求めます。長久手市の魅力は都市と田舎が混在するところであり、南部の里山クラブに続く北部の里山開発に注力すべき時期がきたと思います。市民団体、地元住民、市役所の三者で交流を密にし、目的達成に挑戦していただきたい。

里山の保全は、ぜひ長久手市として力を入れていただきたいです。里山と都会のどちらとも身近にある都市としてこの魅力ある長久手市をもっとアピールしてほしいです。蛍プロジェクトはとても素敵だと思います。

課題に対する意見・提案等

里山の保全・活用について、長久手市の魅力を伝えるための重要な事業と位置づけることができる。幅広い年齢層に魅力を伝え、将来的な人材育成を行うために、大学との連携を積極的に行うことに同意する。ボランティアとしての参加を個人やボランティアサークルに呼びかけるのと同時に、インターンシップの機会を設けてキャリアサポートセンターに呼びかけることも一案であるように思う。学外インターンシップを単位として認める大学もあり、就業経験として市の事業に携わることは、学生たちが自分自身のキャリアを考えていく上でも就職活動時の「売り」となる意味でも良く、里山の保全・活用に関する若い世代のアイデアや活動力を得て、継続的な関わりを期待していくことのできる、win-win の関係を築くことができるのではないかと思います。また、一時的な滞在であるかもしれないが、留学生に呼びかけることも一案であるだろう。日本の里山は留学生にとっても魅力的であり、ボランティアやインターンシップは日本の学生以上に積極的であるだろう。活動を通じた地域の人たちとの関わりも留学生にとっては魅力的であり、多文化交流の場となることで、日本の学生の関心もより積極的なものにすることができるのではないだろうか。子どもたちや幅広い世代にとっても同様である。さらに、散策道の整備や道案内の看板やマップの制作を含めて、里山を活用する計画も積極的に進めてほしい。コロナ禍で遊び場が限定される中においてはとりわけ里山は良い遊び場を提供しうる。健康志向、SDGs への関心、ジブリが繰り広げる世界観にも重なり、長久手市が抱える若い世代の人たちにとっても魅力的であるように思う。入口の機会がこれまで以上に増えることを望

む。

里山に興味のある人を増やすには、里山プランで既に成功している蛍観察イベントを他の地区に展開するのも一方策であろう。ただ、イベントは里山の良さを体感するきっかけにはなるが人数が限られており、すそ野を広げるためには里山がどこにあるのかやどんなところかを、広く市民に理解してもらう方が有効と考える。そのためには、お勧め里山探索ルートの設定や案内看板の設置などが必要となるが、市民が里山に触れる機会が増えることで、結果として里山保全の必要性が理解されると思う。すそ野が広がることで、新たな市民活動団体も見つかる可能性も増えると思う。

また、平成こども塾での米づくり体験イベント等の参加者には里山に興味がある人が多いと思われるので、積極的に連携すべきと考える。タケノコ掘り体験は、竹林所有者と市民の双方にメリットがあり、竹林の保全もかねて企画を検討いただきたい。

里山散策ルートを作って若い世代層も自然と里山に興味を持てるよう、整備していったほしい。